

平成24年度の実証校(中学校及び特別支援学校) における実施計画等の概要

平成24年5月31日

これまでのICT環境の運用・利活用状況(新地町立尚英中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入 状況	生徒数	240	-17	257
	教員数	20	+2	18
	クラス数	10	0	10
年度始めにおけるICT 環境の設定	<p>(生徒用スレート型PC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の動作検証と端末の省電力設定等チューニングの実施 ・進級処理に伴い、3年生PCへ1年生のユーザ登録を行った。在校生徒は同じ端末を継続利用とした。 <p>(教員用タブレット型PC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の動作検証と端末の省電力設定等チューニングの実施 ・人事異動に伴い、ユーザメンテナンスを実施 <p>(インタラクティブ・ホワイト・ボード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書の動作検証と端末の省電力設定等チューニングの実施 			
その他のICT環境の運 用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑に授業を開始するため、シャットダウンせず、スリープ状態で充電保管庫に格納 ・スリープ状態を維持し、省電力チューニングの問題もあり、稼働時間は2時間程度、また、充電保管庫内でフル充電されない端末もあるため、ICT支援員が放課後に充電保管庫の扉の開け閉めを行い、再充電を確認して帰宅する。 			
実証校における取り組 み事例 (ICT環境の利活 用状況)	<p>○電子黒板での教材提示は、ほぼ各教科で活用率が高い。</p> <p>○英語科Versant受験授業(※)での1人1台PC活用事例</p> <p><授業の流れ> ・導入説明(5分)→ PC取り出し～音量調整でサンプルビデオ再生(10分)→ 受験(10分)</p> <p><教員の感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・操作に慣れれば15分で使えるメリットを感じる。結果を即時伝えられるのも、タイムリーな指導が出来、生徒自身にとって授業での記憶が新鮮なうちにフィードバックできることもメリット。不具合の発生について、安定稼働できるよう改善を望む。 ・英語でコミュニケーションをとる上での自分の強みや改善すべき点を早い段階から客観的に知ることができ、効率的な学習が期待出来る。また、定期的に受験することで学習のモチベーションが高まり、自分の進捗度もわかるため自信にもつながるという期待が持てる。 <p>※ Versantのテスト時間は約10-15分。テストはPCを通して行われ、英語のリスニング・スピーキング能力を即時測定</p>			

■ 平成24年度実施計画の概要(新地町立尚英中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
ICT環境の利活用に際しての情報通信技術面等の課題の抽出・分析	<p>①生徒がタブレットPCを自宅に持ち帰り、家庭学習を実証する。家庭環境によりネットワーク接続方法を検討する。バッテリーの充電を忘れずに実施する。</p> <p>②TV会議システムを利用し、遠隔地の学校との交流を行う見込みだが、接続先相手校との接続環境の条件や、日程調整等、円滑に進めるために、まずは校内での活用に慣れるところから実践を検討する。</p> <p>①の項目として、ネットワーク通信速度(インターネット)、セキュリティ対策、安全性、耐久性等の観点から、②の項目として、ネットワーク通信速度(インターネット)、セキュリティ対策等の観点から評価を実施する。「チェックシート」を作成し評価する。</p>
ICT環境の導入・運用に係るコストや体制に関する課題の抽出・分析	<p>①家庭学習の実現 自宅へのインターネット回線契約が無い家庭への回線費用負担とその公平性、必要性などの観点から評価を実施する。</p> <p>②遠隔地の学校との交流 相手校の選定や接続環境の調査、交流授業実現に必要な通信速度にかかる費用、授業を実践して支障が無い速度かどうか等の観点から評価を実施する。「チェックシート」を作成し検証する。</p>
ICT利活用方策の分析	<p>ICT支援員の日報、月報、教員へ実施するアンケートから課題の抽出、分析を行う。</p> <p>項目として、活用計画、実施内容、使用機器・ソフト・アプリケーション等からICT利活用方策どおりに進んでいるか評価し、新地町学校ICT活用協議会で検討を実施する。「チェックシート」を利用する。</p>
将来に向けたICT利活用推進方策の検討	<p>ICT支援員の日報、年報、教員へ実施するアンケート、生徒へのアンケート等から課題の抽出、分析を行う。</p> <p>項目として、活用計画、実施内容、効果、教育計画への反映方法、汎用性等から評価し、新地町学校ICT活用協議会で検討を実施する。「チェックシート」を作成し検討のための情報を整理し、ICT活用グランドデザイン案を検討する。</p>

■ 平成24年度実施計画の概要(新地町立尚英中)

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
被災地におけるICTを活用した効果的な授業と情報伝達方法の検討	<p>新地町復興計画、環境未来都市構想との整合が必要</p> <p>被災地としての経験から、現実に必要なであったICTの活用場面、効果的であったICTの活用場面等を改めて整理し評価する。</p> <p>項目として、<u>地域の方も操作可能なICT機器、クラウドコンピューティング技術を利用した情報共有、発信、HP等への簡易な情報発信の仕組み等の観点から評価を実施する。「チェックシート」を作成し評価する。</u></p> <p>ICT活用グランドデザイン案を検討する。</p>

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
小学校と中学校の一貫した情報教育における整備機器、ICT環境の課題の抽出・分析	<p><u>小学校6年生の年間指導計画と、中学校1年生の年間指導計画との連動性を持たせるためにICTの果たす役割を検証する。</u></p> <p><u>小中学校両者の意見交換、情報共有のために、新地町学校ICT活用協議会で、小学校と中学校の指導計画のあり方について検討する。</u></p> <p>方法として、生徒の態度・評価等を学習活動や学習履歴を振り返ることで見直しを行う。</p> <p>「チェックシート」を作成し評価する。</p>

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:5月11日(金)、第2回:7月20日(金)、第3回:11月、第4回:2月
公開授業	11月16日(金)PM~

これまでのICT環境の運用・利活用状況 (横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況	生徒数	405	0	405
	教員数	24	0	24
	クラス数	9	0	9
年度始めにおけるICT環境の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全PCに対して、セキュリティ対応として、WindowsOSとOfficeのセキュリティパッチのアップデート(更新・導入)を実施 ・共有サーバにて、ActiveDirectoryにて管理するユーザIDについて、次の変更を実施 <ol style="list-style-type: none"> ①卒業生・転出者のユーザIDを削除、個人フォルダを削除(退避) ②新入生ユーザIDを登録、個人フォルダを作成 ③共有サーバにて、Webフィルタリング管理SWにて新入生ユーザIDを登録、ポリシーを適用 ④端末は教室備品として扱い、それぞれ新クラスのPCを使用(在校生はユーザID変更なし) 			
その他のICT環境の運用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・IWBとPCとの接続にUSBを使用し、途中をUSBエクステンダーにて延長させた。そのため1.2mの長さを実現できたが、USB仕様としてケーブルが抜けやすい問題がある。授業前にICT支援員が確認を実施している。抜けにくい構成にするための機材を準備し補強する予定。 ・スライド型IWBであるため、使用回数につれて投影画面にズレが発生する場合がある。プロジェクタの固定を補強し対応した。 			
実証校における取り組み事例 (ICT環境の利活用状況)	<p>タブレットPCを利用して、生徒総会を実施した。印刷の手間や用紙の省資源になった。ECOを意識させるひとつの手立てとして効果的であった。また、個人PCにファイルに配付されているので、必要に応じていつでも見ることができる。今後の取組として、生徒総会前の、予算の質問や生徒会の運営に対する意見集約は、インタークラス等を利用して、クラスごと一括に集約して、幅広い意見集約をすることである。</p> <p>課題としては生徒全員が、同じ議題を共有できているか把握が難しい。そのためには、生徒全員の情報を把握できる仕組みが必要</p>			

■ 平成24年度実施計画の概要 (横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
総合的な学習の時間において、生徒個人が各自の研究テーマをもって、情報収集、情報交換やパワーポイントを利用して、生徒の研究成果を発表する。	このような利活用の場合には、インターネットのアクセスが一時的に増加し、ボトルネックなどの問題が想定されることから、ネットワークの容量の対策を講じておく必要がある。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
中学校で使用している無線LANを開放することを計画している。	災害による混乱等により、一般家庭のネットワークが使用できない場合等に、無線LANを開放することにより、一般市民が情報を取得することが可能かどうかを検討する。

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・ 言語活動の質的な充実を通じた「リテラシー」育成におけるICT利活用方策の分析 ・ 中高一貫連携教育における、ICT利活用方策の分析 	ICT利活用するにあたり、生徒個人の情報機器等の習得状況が違うので、従来型の授業展開では、生徒個人の習得や活用する時間が不足する。リテラシー(問題解決能力)を育むため、授業展開を工夫したり、環境と時間を確保したりする必要がある。

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:6月、第2回:9月、第3回:12月、第4回:3月
公開授業	第1回:12月、第2回:2月

これまでのICT環境の運用・利活用状況(上越教育大学附属中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況 ※◇は特支学級数	生徒数	367	+5	362
	教員数	28	0	28
	クラス数	9	0	9
年度始めにおけるICT環境の設定	<p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級に伴い、生徒は同じ端末を継続利用した。 ・学級編成に伴って、SKYMENUの再編成を行った。 <p>(インタラクティブ・ホワイト・ボード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタラクティブ・ホワイト・ボードとタブレットPCの設定変更を行っていない。 <p>(無線LAN)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無線LANアクセスポイント等については変更を行っていない。 <p>(授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリケーションの更新は行っていない。 <p>年度途中に、生徒用デジタル教科書、教員指導用デジタル教科書(市販)を導入する。</p>			
その他のICT環境の運用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の運用の変更はない。 			
実証校における取り組み事例(ICT環境の利活用状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼休みや放課後など、授業以外でもタブレットPCを日常的に使えるようにしており、生徒会活動や部活動など様々な場面で、使用する姿が見られる。具体的には、生徒総会要項をPDFにして全校生徒へ配布したり、毎月の委員会活動報告をタブレットPCのワープロソフトを使って行ったりしている。 ・コラボレーションツール「<u>コラボノート</u>」を利用し、学級の仲間との協働作業で新学級自己紹介シートを作成した。全校生徒が一斉に作業を行っても、アプリケーションの反応が遅くなるなどのネットワークストレスが無く、写真を撮ったり、書き込みを行ったりできることが実証された。 ・「<u>コラボノート</u>」を利用して、調べ学習のまとめやウェビングを行った。このような場合には、意見交換しやすいように学習形態を工夫したり、<u>コラボノートのレイアウトを大きめにしておくことが効果的であることが分かった。</u> ・<u>IWBの画面保存機能を活用することで、前時の学習内容を瞬時に提示することが可能となり、2時間以上にもたがった授業の接続がスムーズになった。</u> 			

■ 平成24年度実施計画の概要(上越教育大学附属中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境での研究の基本方針を「ICT機器の積極的な利活用による確かな情報モラルと情報リテラシーの育成」とする。 ・ICT機器の利活用場面を、「授業での利活用」、「生徒による利活用」、「日常の利活用」に大別し、それぞれの場面におけるICT利活用の方策について課題抽出と分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒用タブレットPCから必要な情報(週の予定や日程、翌日の時間割、健康観察、緊急情報等、学校生活において必要とされる様々な情報)にアクセスできたり、生徒会専門委員会の活動内容を発信できたりする校内ポータルサイトを構築する。 ・校内に構築したポータルサイトにより、生徒一人一人が様々な情報を共有することが可能となり、授業で生徒が作成した問題を全校生徒で取り組むなどの授業における活用も考えられる。加えて、このようなより現実社会に近いネットワーク環境におけるルールづくりやトラブルを経験することで、より確かな情報モラルを身に付けることができると考える。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所として学校が開放された場合を想定したICT環境の確認を行う。 ・災害時の情報発信や情報収集、安否情報の確認などに使用できるICTツールを確認する。 	<p>災害時において自家発電機による校内サーバへの電源確保や災害に強いICTツールについての知識を得ておくことなどが課題として挙げられている。</p>

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを利活用した単元開発を行い、授業実践を通してその効果と課題を考察する。また、授業にデジタル教材を活用し、その効果を考察する。 	<p>知識基盤社会に対応できる「生きる力」をもった生徒の具体的な姿を「自立して学ぶ生徒」として捉え、「意欲・自律・学びの質」の観点から、ICT活用と単元開発を行う。</p>

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:7月、第2回:10月、第3回:11月、第4回:2月
公開授業	第1回:7月、第2回:10月12日、第3回:11月20日

■ これまでのICT環境の運用・利活用状況(松阪市立三雲中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況 ※<>は特支学級数	生徒数	447	-10	457
	教員数	29	-1	30
	クラス数	14<2>	0	14<2>
年度始めにおけるICT環境の設定	<p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級に伴い、生徒は同じ端末を継続利用した。クラス替えによるタブレットPCの移動および出席番号のラベル貼替えを行った。 <p>(ICT協働学習支援システム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学、進級に伴い、新規ユーザの登録、クラス情報の更新を行った。 <p>(文科省デジタル教科書)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全タブレットPCにインストールを実施した。 			
その他のICT環境の運用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット回線をCATV40Mbpsから160Mbpsに増強した。 ・教材配布の授業を効率的に行うため、クラウド共有サービスの検証を実施している。 ・特別教室での授業でも活用するため、IWBを2台増台した。 			
実証校における取り組み事例(ICT環境の利活用状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・教科によって、授業の前後にデジタルドリル教材を活用している。履歴ドリルを通して生徒自身の弱点を重点的に学習している。 ・様々な教科場面で協働学習システムを使った学習が行われつつあり、学習の学びを共有している。この結果、学び合う姿が高まっている。 <p>[例]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語の読み取りで、心情の変化を各自がグラフ形式で表現し、それを共有して読みを深める。 ・自然教室の個人新聞発表会をIWBとタブレットPCを活用して共有しながら行う。 			

■ 平成24年度実施計画の概要(松阪市立三雲中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
協働学習支援システムをより活用し、協働学習実現のためのツールとしての活用を進める。	記述問題の一括表示機能に対する入力方法がキーボード入力のみであったり、ホワイトボード機能の学級における班割りが事前に一括で設定できず、授業時間にロスが生じるなど活用上の要求とシステムの機能の間のギャップが見えてきている。システムのバージョンアップや機能充実でどこまで対応できるかが今後の課題となる。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
災害通報システムを活用した緊急災害情報の伝達のよりよい方策の検討する。 避難所としての利用時における情報共有、災害時の情報収集手段としてのICT機器の活用について、必要機器類、運用手順などの確立を目指す。	避難所での情報共有については、校内での運用だけでなく、地域の人との連携も重要な課題となる。地域とともに機器利活用の講習等も視野に入れる必要がある。 現実の運用には、電源の確保が必要となる。必要な電力量等もつかむ必要がある。

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
・松浦武四郎記念館の「武四郎講座」などを動画配信し、総合的な学習の時間などの地域学習に活用する。また、 <u>北海道弟子屈町の中学生との交流を図る</u> 。 ・子ども支援研究センターとも連携し、 <u>遠隔教育による学習支援の方法を探る</u> 。	・武四郎記念館のデジタル教材がどの程度移行可能か、あるいは新規に作成する場合にはどれほどの手間やコストがかかるのかがまだつかめていない。また、インターネット交流についてはまだ未知であり、どの程度リアルタイムな交流ができるかを事前に確かめつつ、意義ある交流を図っていく必要がある。 ・生徒のニーズを把握し、それに対応することも必要となる。

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:6月、第2回:7月、第3回:8月、第4回:10月(いずれも予定)
公開授業	11月13日(火)中間発表会

これまでのICT環境の運用・利活用状況(和歌山市立城東中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況 ※<>は特支学級数	生徒数	267	-21	288
	教員数	23	+3	20
	クラス数	11<2>	0	11<2>
年度始めにおけるICT環境の設定	<p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数の増減に対応し教室のタブレットPCの数を調整した。 ・進級に伴い、生徒は同じ端末を継続利用しなかった。 (教員用生徒用のIDは、IDCでAD連携を行っているので端末のIDに依存しないため。) <p>(インタラクティブ・ホワイト・ボード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし。(学校側から職員室への配置を要望されている。) <p>(無線LAN)同時アクセス時の接続付加となる端末について調査中(アクセスポイントは2台/教室)</p> <p>(授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンドロイド端末(Fujitsu ARROWS WiFi以下アンドロイド端末)レイヤーノート(クラウドで画像、PDF等を共有しレイヤー機能を使ってその上に描画できる機能を持つソフト)の導入によって、アプリケーションの更新を行った。 ・クラウド型ドリル教材のiPad2対応 			
その他のICT環境の運用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・スレートPC及びアンドロイド端末、iPadの家庭での利用を開始 ・カナダでのインターネット使用のためのWiFiルータの整備 ・教室整備のスレートPCの運用方法の変更(充電保管庫から朝出し。下校時に保管) 			
実証校における取り組み事例(ICT環境の利活用状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・カナダ国際親善訪問でのアンドロイド端末の利用(Skype、Mailによる学校、家庭との交流、GoogleMapによる検索、カメラ機能によるジオタグ付写真、ビデオ撮影) ・アンドロイド端末の5月連休中の家庭への持ち帰りの実施 ・指導者用デジタル教科書のインストールを実施、授業でのインタラクティブホワイトボードでの活用・クラウド型教材(ラインズE-ライブラリー等)の活用 			

■ 平成24年度実施計画の概要(和歌山市立城東中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> ICT環境の構築・利活用・運用に際しての課題分析 研修、校外でのICT利活用調査 将来に向けたICT利活用推進方策の検討 ICT支援員の作業内容分析、実証校(研究主任等)や協議会、行政担当者との検討 	<ul style="list-style-type: none"> 新地町、シンガポールのフューチャースクールとのプロジェクト型学習交流、修学旅行でのアンドロイド端末の活用では、英語科だけでなく理科や社会などとのクロスカリキュラムを検討する必要がある。 学校間交流の打ち合わせをどのように密のあるものにするか検討を要する。 ICT支援員の仕事の内容の精査を行う必要がある。また、協議会を密に実施し、各委員に合わせた内容での協議を実施する必要がある。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> 災害時の利活用方策のシミュレーションによる課題の抽出と実証および結果の分析 リアルタイムの映像情報など災害時に必要な情報を共有できる環境の利用(既存) 	<p>今年度和歌山全市導入の、緊急地震速報システム及びレスキューPC内蔵の校務用PC(全教員、WiMAX内蔵)配備と合わせて、災害時に対応できるシステムの構築を図るため関係部署との連携を図る必要がある。</p>

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> クラウド型ユビキタス環境の構築と利活用 異なる端末の利活用における課題の抽出 家庭での利用及び 校外や家庭から利用できる学習システム構築 フィルタリング等のセキュリティ面に係る調査 	<ul style="list-style-type: none"> クラウド型教材の効果が上がるシステム構成について検討する必要がある。 それぞれの特性を把握し適したシステムを検討する必要がある。 ネット接続環境整備、破損、紛失等への対応策を検討する必要がある。 授業での活用が進むとフィルタリングを緩めてほしいとの要望が出てくるが、その適切な範囲を検討する必要がある。

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	1回:4月、2回:4月、3回:5月、4回:5月、5回:6月、6回:6月、7回:8月、9回:9月、10回:9月、11回:11月、12回:11月、13回:12月、14回:1月、15回:1月、16回:2月、17回:3月予定
公開授業	第1回:6月、第2回:11月

これまでのICT環境の運用・利活用状況(新見市立哲西中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況 ※◇は特支学級数	生徒数	62	-2	64
	教員数	12	0	12
	クラス数	3<0>	-1	4<1>
年度始めにおけるICT環境の設定	<p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が2人減少したが、総務省の予備機台数の積算基準が、3%から5%に増加したため、<u>予備機を1台追加した</u>。それにより、平成24年度のタブレットPCのレンタル数は77台となった。(平成23年度:78台) 進級に伴い、<u>旧1・2年生は同じ端末を継続利用し</u>、旧3年生のタブレットPCを新1年生用に設定し直した。 <p>(インタラクティブ・ホワイト・ボード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援学級で利用していたIWBについては、来年度には特別支援学級が必要となり、またリース物件であるため、職員室に移動させ、会議やアプリ及びシステム等の研修や校務用として利用する予定。 <p>(授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> iPadの年度更新及び故障時の予備機利用のため、iPadの設定内容及びアプリのバックアップにCloudも利用することを検討し、新1年生用iPadに設定した。 先生に利用希望をヒアリングしアプリを追加した。 			
その他のICT環境の運用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> 協働型ICT学習支援システムは、IWB制御用PCをサーバ代わりにして、クラウドコンピューティング・サービスを利用していたが、<u>不具合が多発したため</u>、IWB制御用PCサーバの代わりに、校内にPCサーバを設置し利用した。これにより、不具合が解消されたため、実証校の夏休み期間に市の情報センターに仮のシステムサーバを設置し、同センターをクラウドとした域内クラウドでの、同システムの運用実証を行う予定 修学旅行での利用のため、対象となる生徒のiPadには端末検索アプリをインストールし、パスコードロック機能を有効にした。今後、iPadの持ち帰りや課外授業での利用を想定しているため、すべてのiPadに同様の設定をする予定 			
実証校における取り組み事例 (ICT環境の利活用状況)	<ul style="list-style-type: none"> iPadを修学旅行で利用するために、盗難防止等対策としてiPad検索アプリのインストール及び情報漏洩対策として<u>パスコードロック機能の有効化を行った</u>。また、現地での交流資料の置き場に、Dropboxを利用することとしたが、3G接続が利用できない可能性を考慮し、ローカルであるカメラロールにも保存した。今回、全員ではないが修学旅行でのiPadの利用について、<u>現地から写真等をDropboxへアップロードすることで、学校にいる先生もすぐに状況を知ることができ</u>、また、HPに様子を掲載したことにより、<u>保護者も状況を知ることができた</u>。更に、生徒は現地でiPadでアプリを利用してプレゼンを作成したり、まとめることができ、帰ってからの作業を省略することができた。 			

■ 平成24年度実施計画の概要(新見市立哲西中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用) 予定

内 容	想定される課題等
基礎学力の向上・自己学習能力の向上・動機付けのためのICT利活用、空き時間・家庭へ持ち帰っての利用や、生徒の興味を魅きかつ授業等で活かせるアプリの選定。また、個人的ツールとしての利活用だけでなく協働でのツール、表現能力向上のツールとしてのアプリケーションの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面にどのようなアプリケーションが利用でき、かつ有効であるかの検討が課題である。 ・アプリケーション・機器の更新時や故障対応 ・ICTに親しんだ生徒に対する効果的な教育手法の構築 ・複数アプリケーションの組合せ、教材アレンジ等、高度なICT利活用による効果的な教育手法の構築 ・教科に捉われず利活用できる協働教育手法の構築
家庭との連携でのタブレットPC・各種アプリケーションの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の理解及び家庭でのネットワーク環境 ・持ち帰っての利用という点から、自己管理を徹底していく。そのための、リテラシーやマナーなどの指導、環境の整備と意識改革 ・持ち帰って利用する際の持ち帰り手順及び取り扱いなど、生徒自身によるルール作成のためのリテラシーやマナーなどの指導方法 ・どのような場面にどのようなアプリケーションが利用でき、かつ有効であるかの検討 ・複数アプリケーションの組合せ、教材アレンジ等、高度なICT利活用による効果的な教育手法の構築 ・教科に捉われず利活用できる協働教育手法の構築
地域との連携でのタブレットPC・各種アプリケーションの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面にどのようなアプリケーションが利用でき、かつ有効であるかの検討 ・複数アプリケーションの組合せ、教材アレンジ等、高度なICT利活用による効果的な教育手法の構築
学習以外(放課後)でのタブレットPC・各種アプリケーションの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面にどのようなアプリケーションが利用でき、かつ有効であるかの検討 ・複数アプリケーションの組合せ、教材アレンジ等、高度なICT利活用による効果的な教育手法の構築 ・教科に捉われず利活用できる協働教育手法の構築
課外授業等(総合学習・職場体験・修学旅行)でのタブレットPC・各種アプリケーションの利活用	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような場面にどのようなアプリケーションが利用でき、かつ有効であるかの検討 ・複数アプリケーションの組合せ、教材アレンジ等、高度なICT利活用による効果的な教育手法の構築 ・教科に捉われず利活用できる協働教育手法の構築
市内への展開を考慮し、情報を共有することによる、資質の向上だけでなく、ICTに疎い教員のために、ICT教育推進校で作成された教材を、閲覧及び利用可能な教材倉庫(教材プラットフォーム)等充実のためのクラウド・サービスの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・市内への展開方法、経費、ICT支援員の確保、保護者及び教員の理解 ・サーバ機器等初期導入及び維持コスト ・教材倉庫への保存(著作権等の検討を含む)及び運用ルール
情報センターに仮サーバを設置し、協働型ICT学習支援システムの稼働実証及び教職員用の教材倉庫を設置するための手法等について検討する。	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバ機器等初期導入及び維持コスト ・協働型ICT学習支援システムを安定稼働させるための手法及びネットワーク ・教材倉庫への保存(著作権等の検討を含む)及び運用ルール
ICT利活用において必要になる教員の研修会・情報共有(各種システム及びデジタル教材等、それらを組み入れた授業案及び指導案の作成等)等の実施、体制・運用整備	<ul style="list-style-type: none"> ・新規赴任した教員への引継ぎや教育支援体制の構築 ・地域協議会との連携

■ 平成24年度実施計画の概要(新見市立哲西中)

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
ICT機器を利用した避難訓練を実施し、情報通信手段として利用する。また、安否確認及び道路状況などの把握のために、各種アプリケーションを利用する。	<ul style="list-style-type: none"> 各機器をどのように利用するか、またどのようなiPadアプリを利用するかが課題である。また、実施するに伴い、災害内容等の想定が課題である。 哲西中学校だけでなく、新見市哲西支局及び哲西中学校管内の住民と行うなど実施内容及び規模が課題となる。

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
校舎外での利活用を促進するネットワーク環境の検証	<ul style="list-style-type: none"> 校舎外での学習における3G回線接続環境 3G回線接続環境を利用する際のアプリケーション動作上の課題 3G回線接続環境を利用した効果的な学習・指導方法
家庭学習を促進するため、iPadの家庭への持ち帰りのための、情報モラル教育を行い、生徒自身で持ち帰りのルールを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の理解と破損時の対応等 持ち帰りのためのルールづくり及び情報モラル教育 家庭・学校での無線LANの切替えに関する方策 無線LAN未整備家庭における3G回線活用に関する方策 家庭学習でのタブレットPCを利活用した新たな学習形態・利用可能性

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:6月、第2回:10月、第3回:12月、第4回:2月 * 地域協議会としては4回の開催を予定しているが、公開授業及び研究授業後の会議を開催する可能性あり。
公開授業	第1回:5月下旬に3日間自由参観として公開授業を予定 第2回:11月(市内外向け公開授業)

■これまでのICT環境の運用・利活用状況(佐賀県立武雄青陵中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況	生徒数	476	+2	474
	教員数	28	+1	27
	クラス数	12	0	12
年度始めにおけるICT環境の設定	<p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、教員数の増加に対しては、現段階では緊急避難的に予備機(故障時対応用)で対応している。 <p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・在学中は、生徒は同じ端末を継続使用。 ・新入生は、卒業生(前年度の3年生)が使用した機器をデータを初期化した上で使用。 <p>(インタラクティブ・ホワイト・ボード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前年度と同じ使用環境が維持できたため、特段の変更の必要はなし。 <p>(無線LAN)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワークの不安定な環境を解消するため、サイトサーベイを実施し、無線LANのチャンネル変更を実施した。その後、<u>1学年全生徒(160台)のタブレットを同時にログインしたが、大きな問題はなかった。</u> <p>(授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度更新作業を実施した。 ・指導者用デジタル教科書(国、社、数、理、英)をインストールした。 			
その他のICT環境の運用の変更点	<p>「タブレットPCのデータを保存する際、保存先のネットワーク上のドライブが繋がらないことが頻繁にあり、タブレットPCのDドライブに保存先を変更し、対応している」との報告があったため、現在、関連ソフトを検証中</p>			
実証校における取り組み事例(ICT環境の利活用状況)	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の調べ学習を実施した。 ・授業支援ソフトの機能を利用して、<u>生徒の端末画面をIWBに投影し、協働学習を行った。</u>展開授業でもスムーズに行う場合は、<u>展開クラス用の生徒登録を事前</u>にしておく方がよい。 			

■ 平成24年度実施計画の概要(佐賀県立武雄青陵中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル教科書やデジタル教材(指導者用・学習者用)を使用した学習指導法(個別学習、一斉学習、協働学習)の実証 ・IWBやタブレットPCを利活用した協働学習の実証 	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットPCを効果的に利活用した学習活動をいかに充実させるか。 ・学習者用デジタル教科書の操作スキルをいかに向上させるか。 ・成果検証の指針をいかに策定するか。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
災害時に対応したIWBとタブレットPCの利活用について検討	(IWB) <ul style="list-style-type: none"> ・災害時電子情報ボードとして活用した場合の既存以外のネットワーク環境をどう構築するか。 (タブレットPC) <ul style="list-style-type: none"> ・災害時ポータル画面に自動でつながるような設定をした場合、端末の安定が確保できるか。 ・無電源による連続使用時間が限られる点をどう工夫できるか。 ・不特定多数が利用するためにどのような使用マニュアルを作成するか。

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
校地の離れた併設型高校(武雄高校)の生徒とのWEBカメラを用いた中高交流の充実。	<ul style="list-style-type: none"> ・動画や音声をスムーズに配信するためにどう工夫するか。 ・手軽に利用できるようにどのようなマニュアルを作成するか。

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:6月4日(月) 第2回目以降は、8月、10月、12月、2月、3月を予定
公開授業	第1回:6月14日(木) 第2回:11月(予定)

これまでのICT環境の運用・利活用状況(宮古島市立下地中)

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況 ※◇は特支学級数	生徒数	107	-10	117
	教員数	20	1	19
	クラス数	4	0	4
年度始めにおけるICT環境の設定	(タブレットPC) ・進級に伴い、生徒は同じ端末を継続利用した。 (インタラクティブ・ホワイト・ボード) ・当初設定と変更なし。 (無線LAN) ・当初設定と変更なし。 (授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム) ・デジタル教材のインストールを行った。			
その他のICT環境の運用の変更点	・プリンタ(IWB用)がチョーク粉で汚れないように、追加でプリンタ全数分のカバーを用意した。			
実証校における取り組み事例(ICT環境の利活用状況)	・研究教科の数学・理科・技術を重点的に支援している。タブレットPCは、週に3回程度、活用している。 ・インタラクティブ・ホワイト・ボード(電子黒板)は、毎日3時限程度、活用している。			

■ 平成24年度実施計画の概要(宮古島市立下地中)

■ 平成24年度の取り組み(ICT利活用)予定

内 容	想定される課題等
研究教科の数学・理科・技術を重点的に活用を行っている。	デジタル教材のインストール作業が終わり次第、教員の実習を充実し、操作方法の習熟度を上げる必要がある。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
災害時の広域避難場所に指定されていることから、H23年度同様にICTを活用して、宮古島市災害想定訓練を実施する。	H23年度は、避難場所である体育館に無線LAN環境が無く、 <u>IWB(インタラクティブホワイトボード)</u> をスタンドアロン状態で利用した。本年度中には、無線LAN環境を構築してインターネットへの接続を可能にし、災害・防災情報等をタブレットPCやIWBで利活用することを検証していきたい。

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
「言語活動の充実を図る授業の工夫・改善」をテーマにIWBやTPCを活用して発言・発表・話し合いの場面をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員・生徒のICT機器操作能力を高める必要がある。 ・教員のICT機器を活用した授業づくりについて理解を深める必要がある。 ・授業中のICT機器の不具合等への対応について、ICT支援員を含め、全職員でスキルを高める必要がある。

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回:5月11日、第2回:7月20日、第3回:10月12日、第4回:11月16日、第5回:2月15日、第6回:3月27日
公開授業	第1回:5月11日、第2回:11月15日、第3回:2月13日

これまでのICT環境の運用・利活用状況（富山県立ふるさと支援学校）

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況 ※小学部、中学部（高等部を除く） 数値	児童生徒数	20	-7	27
	教員数	25	-3	28
	クラス数	4	-5	9
年度始めにおけるICT環境の設定	（タブレットPC） ・進級に伴い、児童生徒は同じ端末を継続利用している。 （インタラクティブホワイトボード） ・使用教室が若干移動したため、それに伴いインタラクティブホワイトボードを移動した。 （無線LAN） ・特に変更しなかった。 （授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム） ・業者により、開発アプリケーションや新規アプリケーションのタブレットパソコンへの更新インストールを数回実施した。			
その他のICT環境の運用の変更点	・合同授業で一斉にアクセスした際、アクセスポイント（AP）の設定限界端末数を越えアクセスできない状況になったので、APの設定限界端末数を変更した。 ・インタラクティブホワイトボードの映り込み対策として、解像度の変更を実施した。			
実証校における取り組み事例（ICT環境の利活用状況）	・小学部では、コミュニケーションの向上をねらった授業で、タブレットPCで作成した自己紹介資料を、インタラクティブホワイトボードに写し発表することで、各児童が全員の前で自信をもって発表できた。 ・中学部では、生活上の困難を改善・克服する意欲の向上をねらった授業で、日頃の自分の行動や気持ちを表で表し、生活改善の意欲の向上につながっている。 ・訪問教育では、タブレットPCをベッドの側に付け、画面を追視させたり、PCに触って画面を変化させたりして、応答する反応を高める指導に役立てた。			

■ 平成24年度実施計画の概要（富山県立ふるさと支援学校）

■ 平成24年度の取り組み（ICT利活用）予定

内 容	想定される課題等
個の認知特性に応じた学習環境の構築 （ICT利活用により学習意欲をもち進んで参加できる授業の実施）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の機器の故障は、児童生徒の学習意欲を低下させることから、<u>普段から機器の状態を管理する体制を講じ、突然の故障や不具合などの問題を回避させる必要がある。</u> ・個の障害に応じて、タブレットPCへ入出力できるシステムを開発するため、<u>異なる障害の事例を蓄積する必要がある。</u>

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
災害時にタブレットPCを使用しており、そのままPCを利活用することを踏まえた災害想定訓練の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時において児童生徒が使用していたタブレットPCを情報伝達手段として、<u>避難命令や避難先を瞬時に明示することができるようなソフトの開発が課題である。</u> ・災害時に停電し、電気が復旧した際のICT機器のスムーズな復旧が課題である。

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
子どもの世界を広げる研究	<u>校外の講師とリアルタイムでテレビ会議通信する際、使用しているマルチネット回線の許容容量をオーバーさせず、画像等が停滞するなど学習にストレスを与えないような仕組みを作ることが必要である。</u>

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回：6月、第2回：8月、第3回：10月、第4回：2月
公開授業	11月下旬（調整により時期が変更となる可能性があります）

■これまでのICT環境の運用・利活用状況（京都市立桃陽総合支援学校）

内 容	設定作業等の状況			
		24年度	23年度との差	23年度
生徒・教員の転出・転入状況	児童生徒数	49	-17	66
	教員数	41	+1	40
	クラス数	13	0	13
年度始めにおけるICT環境の設定	<p>(タブレットPC)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進級に伴い、児童生徒は異なる端末を利用するように変更した。 ・端末番号と児童生徒名の紐付け管理を廃止し、端末番号のみでの管理に変更した。 これに伴い、データ保存についても、端末本体からサーバで保存する方法に変更した。 <p>(インタラクティブ・ホワイト・ボード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタラクティブ・ホワイト・ボード用のPCを教室に固定設置し、配線を養生した。 <p>(無線LAN)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無線LANの設定については特段の変更等は要していない。 <p>(授業支援のためのアプリ・教育用コンテンツ・協働教育プラットフォーム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教室に、見やすいICT機器マニュアルを再作成し、設置した。 ・追加のデジタル教科書のインストールを行った。 			
その他のICT環境の運用の変更点	<ul style="list-style-type: none"> ・充電保管庫を1台追加で配備したことで、職員室奥に設置している教員の充電保管庫と分けることができ、児童生徒がタブレットPCを利用しやすい状況に改善することができた。 ・リモート顕微鏡を利用した授業のため、タブレットPCにリモート顕微鏡を操作するソフトを追加した。 			
実証校における取り組み事例（ICT環境の利活用状況）	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校1年理科の授業でリモート顕微鏡を使った学習を行い、<u>分教室では従来実施できなかった微生物観察を行うことができた。</u> ・中学校3年理科の授業でリモート顕微鏡を使った学習を行い、<u>分教室では従来実施できなかった細胞分裂の様子を観察することができた。</u> ・<u>金環日食の様子をリモートカメラで配信し、病室で見ることができた。</u> ・<u>着任式・始業式や児童生徒会活動（立会演説会）など、本校と分教室間のTV会議システムを活用した特別活動を円滑に行うことができた。</u> 			

■ 平成24年度実施計画の概要（京都市立桃陽総合支援学校）

■ 平成24年度の取り組み（ICT利活用）予定

内 容	想定される課題等
病院内における無線LANの活用	昨年度から実証研究を行ってきた京大附属病院に続いて、7月頃から府立医大病院でも実証研究が可能となる予定である。京大病院での“既存のネットワーク活用”とその他3病院での“新たなネットワーク導入”という異なる環境において、課題の抽出・分析等の検証を行う。
本校と分教室（最大4箇所）を結ぶ理科実験システム（リモート・サイエンス・ラボ）の充実及び音楽活動システム（リモート・コンサートホール（仮称））の新規開発	病院における各種制約の一つとして、楽器の持ち込み・演奏がある。理科実験に続いて、ICTを活用した本校・分教室間（遠隔地間）での合奏が可能となるシステム開発に関する実証研究を行う。想定される課題としては音声遅延の解消である。なお、理科実験システムについても昨年度は短期間での実証研究であったが一定の成果もあったことを踏まえ、今年度も継続し、充実を図る予定である。

■ 災害時における学校ICT環境の活用に係る平成24年度の取り組み予定

内 容	想定される課題等
災害時におけるICT機器利活用方法や教育活動と避難の円滑・効率的な両立を図る方法	<ul style="list-style-type: none"> ・24年3月に実施した想定訓練の課題（避難民へのメールアドレスの付与及び管理方法、教職員の負担軽減・避難所内での自治組織確立等を想定した充電保管庫の移動・管理方法、その他詳細のルールづくり等）を踏まえた、マニュアル整備・訓練の実施 ・京都市の災害対応関連部署における新たな取組等との連携

■ 独自テーマ

内 容	想定される課題等
TV会議システムを活用した本来校（前籍校）との交流活動のあり方等	・実証校と転入してきた児童生徒の本来校（前籍校）における異なるICT環境間での円滑な交流活動のあり方等について課題の抽出・分析等の検証を行う。

■ 地域協議会・公開授業の予定

地域協議会	第1回：6月1日、第2回：9月、第3回：11月、第4回：3月
公開授業	第1回：12月7日（一部）、第2回：2月15日